

平成29年度図書館専門委員会会議録

- 1 日 時 平成29年6月6日（火） 午後2時から午後4時まで
- 2 会 場 愛知県図書館 5階 中会議室
- 3 出席者 委員8名（富田委員欠席）、館長、副館長、資料支援課長、サービス課長、各グループ課長補佐8名、生涯学習課職員1名、文化芸術課職員1名、企画グループ班員1名
- 4 傍聴者 なし
- 5 取 材 なし
- 6 発言要旨 以下のとおり

【開会】

館長

県図書館は、昨年開館25周年を迎えた。開館当時には想定されなかった情報化社会の進展や少子高齢化など、社会情勢は大きく変化し、図書館に求められる役割は多様化している。また、景気の低迷による税収の減少に加え、社会保障関係経費を始めとする義務的経費の増加などにより地方財政は厳しさを増している。残念ながらこれまで県図書館はこうした社会情勢の変化に十分な対応ができていなかったと考えている。こうした変化に応じて、県図書館は県内の公立図書館の拠点館として、また、この中区に位置する図書館として、県内の公共図書館や利用者に向けてどのようなサービスをお届けするか、この委員会から昨年頂戴した御意見を踏まえ、職員を挙げて検討を始めている。委員の皆様にはそれぞれの御専門のお立場から御指導賜りますようお願い申し上げます。

【議題1 平成28年度事業について】

資料に基づき事業内容及び点検・評価について説明（副館長）。

中島委員長

ただいまの報告について、御意見・御質問等があればお願いしたい。

伊藤委員

評価について、次期の計画を考える時に満足度など定性的な評価を取り入れるように検討してほしい。評価をする際に負担が大きくなるかもしれないが、結果的には業務を行っている図書館側の信頼性のある評価につながっていくと確信する。

副館長

御指摘を受けたことを踏まえて、次期の計画では定性的な評価項目を検討したい。

中島委員長

バックデータの質の部分、満足度を測るのは大変難しいが、重要な要素があるので是非具体化していただきたい。

水野委員

各行動目標に対して主体となる部署があり、四半期毎ぐらいで確認しているのではないかと思うが、進捗管理はどのようにしているのか。

副館長

3課8グループあり、1つの行動目標に対して1つ以上のグループが関わっている。進捗状況は1ヶ月に1回全体会議でチェックをして進行管理をしている。

山田委員

行動目標17番の「高等学校など関係機関との連携の支援」はD評価だが、調べ学習をするために専門的な本がほしくても校内の図書館にはなかなかないので、このような県図書館の本を借りられる支援事業を進めていただけるとありがたい。実績は6校491冊とのことだが具体的に教えてほしい。

資料支援課広域グループ課長補佐

この6校は、豊田東、長久手、東郷、犬山、愛知淑徳、名古屋大谷高校である。

副館長

少し補足を。平成27年度に県教育委員会が学校図書館活性化モデル事業として行った時のアンケート調査では、満足度が非常に高かったが、昨年度は予算が取れなかったという事情があり、足踏みしている。県教育委員会と連携して少しずつ進めたい。そのためにも、今年度は県教育委員会生涯学習課長に委員に入ってもらっている。

越智委員

高校側からこういう分野のこういった本をとという要望に基づいて県図書館の蔵書から選び、搬送経費は教育委員会が持つというしくみか。

副館長

平成27年度は県教育委員会が搬送経費の予算を取って行った。通常、高等学校に本を貸出す時は県図書館の経費で学校に送るが、返送は学校負担ということになっており、この点が障壁となっている。

資料は、例えば修学旅行先の歴史や文化関係の本がほしいとか研究課題があつてこの分野の本がほしいなど学校側の要望に応じてパッケージ化して送っている。

中島委員長

大変重要な取組みなので、充実させていただきたい。

ほぼ御意見・御要望が出たので、議題については了承ということでよいか。

「異議なし」

課題2に進みたい。

【議題2 平成29年度事業について】

資料に基づき事業計画について説明(副館長)。

中島委員長

議題2の質問を受ける前に、事務局から資料3の御意見について回答を願う。

サービス課長

中島委員長からの御意見についての回答

来館者アンケートから2点挙げていただいた。1つ目は、20代の利用者が少ないこと。これは窓口でも実感している。今後20代の若い人たちをターゲットとして意識した事業を工夫していきたい。昨年、今年と20代の若い職員を採用することができたので、その者たちの意見を聞くことも大切だと考えている。

2つ目はレファレンスを利用することについて関心が低い点。「レファレンス」という用語自体が日常の言葉として定着していないため、「レファレンスやります」と唱えるだけでなく、具体的に、こういう質問をしてもいいのですよ、ということ、様々な機会を捉えて知らせるようにしたい。

サービス課長

薬師院委員からの御意見（行動目標の34番）についての回答

平成28年度事業計画で「適正な人員配置によるサービスレベルの維持と専門的スキルの継承を目指す」とし、達成状況で「カウンター業務を見直し、企画業務等の充実のための時間捻出について試行」とあるが、「見直し」とはどのような内容か。利用拡大のため「魅力あるイベント」を「継続的に実施」すること等が検討されているが、図書館を魅力ある存在と認めるのはイベントだけではない。勤務先大学の学生達より、県図書館のカウンター対応で質問に満足に答えられなかったと感想を聞いた。イベント等に力を入れる反面、カウンター業務を軽視しているように思う。イベントの実施と職員配置とは別の問題として検討する必要がある。との御意見をいただいた。

イベントでの一過性の集客を、いかにリピーターとして定着させられるかは、魅力的な蔵書構成・高いレファレンス能力を備えた職員など、図書館の真の力が問われるところ。カウンター配置の見直しは、これまで一度も訪れたことのない方々にも足を運んでもらうためのイベントと、繰り返し利用してもらおうための図書館本来の力のアップと、両方を目指し図書館職員全体のレベルアップの方策として行うこととした。これまでレファレンスを担当することが少なかった非常勤職員も、人材育成の観点でそういう機会を増やした。その中で不十分な対応があったのかもしれない。職員全員に知らせ、今後、常勤・非常勤を問わず、いっそう人材育成に力を入れてまいりたい。

中島委員長

それでは、今のことも含めて議題2を中心に御意見・御要望を賜りたい。

薬師院委員

丁寧にお答えくださり本当にありがとうございました。愛知県図書館の話は学生からよく聞く。今までは評価が高かったが、今年愛知県図書館で対応にびっくりしたという話があった。もしかしたらカウンターからイベントの方にシフトされたかと思い、今回質問をした。

副館長

現場改善のため、そういった御意見はどんどん言っていただきたい。平日1時半から3時半は利用者が少し減るため、2人カウンターに出していたのを非常勤職員1人にして、職員1人は他の仕事をするとともに、カウンターのバックアップを行うこととした。その時間に起こったことかと思うが、再度職員教育を徹底する。

薬師院委員

先ほど出たレファレンスのことを普通の人は知らない。図書館で何でも聞いていいのだと思うかどうかは、カウンターでの対応にかかっている。そのあたりをちょっとお考

えいただければと思う。

中島委員長

具体的な御指摘なのである意味わかりやすい。

館長

貴重な御意見をいただき、ありがとうございます。職員にこのようなことがないように進めてまいります。

水野委員

人材育成は、OJTのことを言っているのか、OFF-JTのことを言っているのか。

また、その専門性に比例したある分野では、マイスター制度を技術職、専門職に導入しているところがあるが、この分野にはこの人ということができると他の図書館との差別化ができると思う。人材育成の具体的なあり方をどう考えているのか。

副館長

OJTについては月1回レファレンス研修を行っている。OFF-JTは職員の意識にゆだねているが、通信教育を受けている者や日本図書館協会の資格を取っている職員がおり、周りに良い影響を与えている。人材育成については、昨年度から司書の採用を再開したこともあり、今年度、体系的な研修体制を整えるよう進めている。

専門分野を作る話については、専門分野を持っている職員もいるが、カウンターでは幅広く対応しなくてはいけないため、まずは、ある資料にたどり着くためのレファレンス能力の向上を図り、その上で専門分野ができれば強みとなると思う。

水野委員

窓口にいる職員はその階に固定か。

副館長

原則固定だが、変則勤務であるため他の階の応援に入ることもある。主題別に固定しているが、人事異動で配置を変えていくので、館内くまなく回るようになっている。

伊藤委員

次のシステム構築は雑誌について行うということか。同時にデジタル化を進めるということだったが、デジタル化はシステム構築に入っていないのか。

総務課企画グループ課長補佐

システムについては、第5期は雑誌を含めて、全ての業務を見直すことが前提となる。第4期からクラウド対応になり、今のところ不具合はない。基本的には現行のクラウドを次期システムにも採用していきたい。その中で雑誌貸出のためのシステムを組み込む方向で考えている。

デジタル化については、このシステムとは別に、和本や地図の情報を拡張していく。昨年度写真撮影の経費が付いたので、今年度は写真を撮った資料の解題を整理していく段階。それを順次ホームページにアップして、デジタル情報としてさらに充実に努める。また、平成29年度事業の中で触れている産業分野の資料についても、散逸の恐れがある資料をどうやって残していくか、残すことと利用とを両立させるための方策としてど

ういうデジタル化の対応ができるか探っていきたい。

伊藤委員

デジタル化しても、それらと印刷媒体資料とが、システム上で別になっているのでは、検索の際に利用者にはわかりにくい。産業分野の情報収集に重点を置いていく方針とあわせて、デジタル情報とアナログ情報を、別個ではなくシステムの中で総合的に考えていく方がいいのではないか。

総務課企画グループ課長補佐

システムで検索した結果がデジタル情報に結びつくように整理する必要がある。クラウドシステムの中でどのように構築できるかも含めて検討していきたい。

伊藤委員

ものづくり関係の資料について、自市内に本社を持つ市の図書館と連携した収集の仕方やサービスのあり方などが考えられるのではないかと思うが、その点はどうか。

副館長

市町村が把握しているものもあるし、産業関係でいうと古い協同組合のようなところが情報を持っていることもある。まずは、資料の在りかから調査したい。今年度予算要求したが、つかなかったので、市町村立図書館にも御協力いただき、どこにどのような資料があるか調べていきたい。

薬師院委員

利用拡大するために他県の先進事例を見ることは、とても素晴らしいことだと思う。ただ、それは必ずしも利用に結びついているわけではない。先進事例を見る時に表面的な華やかさ、マスコミ的な華やかさだけではなくて、そういったことも踏まえながら冷静に判断していただきたい。

副館長

おっしゃるとおりで、失敗している事例も見なくてはいけない。冷静に分析することが重要であると考えている。

坂委員

「平成 29 年度の利用拡大に向けた方向性の検討」に、全ての県民への図書館サービスの提供と言っている。60 代以上の方が相当いらっしゃっているのが現実だが、そういった方々にどのようなサービスをしているか、また今後について検討しているか知りたい。

サービス課長

健康医療情報のところでも少しお話したが、生涯現役でとか健康長寿とかいった観点で資料を提供することも大切かと思うし、もう少し下の年代の方については親世代の課題についてこたえられるような資料を揃えて提供している。高齢者向けのサービスは特にはないが、大活字本がある。利用者の中で数が多いので高齢者向けのサービスは必要かと思う。

坂委員

蟹江町図書館で高齢の方向けに古い世代の作品を上映する映画会を開催しているが、なかなか参加されない。町の図書館なので、子ども連れの家族の方が多いのが現状。70代くらいの方や、10代20代の方にはどのようにするのがよいか迷っている。読み聞かせなど子どもを持つ若い世代の方を対象にできるものは、結構たくさんあるが、高校生、大学生、70代くらいの方に提供するサービスをどうすればよいか、いつも考えている。参考になるものがあれば教えて欲しい。

中島委員長

なかなか難しいかもしれませんが、もしあれば。

副館長

先ほど説明したとおり、高齢者の利用は、61歳以上が2割、来館者アンケートでみると35%で1/3を占める。映画会をすると60代以上の方が多く、ある意味ニーズが合っているのかもしれない。高齢者に対するイベントをどうするかは研究課題で、良い事例があれば情報提供したい。

千賀委員

高齢の方が非常に多く、会社員の方も来ているが、幼児のところは人がいないことが多い。せっかくいいスペースがあるのに、知らない方が多いのではないかな。また、館内に入ってもわかりにくい。

レファレンスは多分知らない人が多く、どこでどう聞いたらよいかわからないと思う。図書館に入ってすぐに、レファレンスを受けられるということがわかるように、案内があるとよい。

フォーラム「図書館のチカラ」に参加した時、中日新聞の方が、本の一節の文章の出典が何年もわからなかったが、県図書館に相談したら、これですよと出してもらって感動したという話をしていた。そういうことができるならもっと宣伝してもよい。

県図書館には学生が学校帰りに集まって調べる場所がない。名古屋市の徳重図書館を利用するが、学習ルームが無い。図書館への通路に保健所や区役所があって机や椅子が置いてあり、人が通るざわざわした空間だが、学生はそこで勉強している。今県図書館の1階にそういったスペースを考えていると聞いたので、楽しみだ。親子で読み聞かせができるような場所があれば、出かけようと思うお母さんがいて、その子が大きくなってまた来てくれるのではないかな。

副館長

とても的確な御意見・御指摘をいただいた。児童図書室があることや、レファレンスのことを県の職員ですら知らないのが現実である。更に様々な機会を捉えてPRに努めたい。

伊藤委員

そういったことを図書館のツイッターでつぶやけないかな。県図書館のツイッターは〇〇が入りました、〇〇がありますがほとんどのような気がするので残念に思っている。こんな感動がありましたとかつぶやくのはいけないのかな。図書館でツイッターにあげるのは業務上決裁がいると聞いているが。

昨年滞在していた海外のホールには図書館のパンフレットが置いてあり、図書館の紹

介だけでなく音楽イベントにどれだけ貢献しているかわかるようなものが置いてある。例えば、オペラ資料を図書館がこれだけ揃えているとか、上演の解説、資料を御相談に応じて調べますとか。ツイッターが若い人たち向けの広報であればイベント会場などに図書館のパンフレットを置いてもいいのではないかと、名古屋にもせっかくアトライブラリーがあるのだからホールにもパンフレットを置いてもいいのではないかといつも思っていた。たまたま昨年海外でもやっていることを知ったので、御紹介した。

副館長

芸術文化センターにはホールも美術館もある。最近取り組んでいるのは美術館の企画展に合わせてこちらでも関連の図書展示をしたり、県図書館が持っている図書のリストを提供して配れるようにしたりとか。ホール関係はいろいろな演目に関するものがあり、本数も多いので、実現はなかなか大変だが、取り組めたら良いと思う。

館長

ツイッターについては事務連絡に使っているようなものなので、もっとやわらかくしたい。

副館長

当館のツイッターの運用は、チェックをかけていない。なるべく自由に若い人が発信できるようにしている。

山田委員

高校生もネット社会。調べ学習をしでもネット情報だけで済ませてしまう生徒がとても多く、書籍に当たることをしなくなっているのが非常に残念。レファレンス機能という話を聞き、例えば夏休みなら名古屋市内ではない高校生も名古屋までは来るとできると思う。調べ学習のテーマを持っていて皆と何かしようと思っている生徒たちに、イベント情報だけでなく、ここで相談もできるし、こんな資料もあるよという情報提供が、各学校の図書館担当者の手に渡れば、来てみようかなと思うかもしれない。今後そのようなチラシと合わせて情報提供していただければありがたい。

中島委員長

ありがとうございます。

館長

ラーニングコモンズの話で、積極的な御意見をいただいた。音が出ることによって静かな環境が損なわれるという懸念もあるが、それについては当館は3、4階とは建物上分離されているため、静かな環境を求める方は3、4階へ、多少音が出てもいい方は1、2階へというすみ分けをさせていただこうと思うが、これについてもし御意見がいただければと思う。

千賀委員

静かな環境がよくて、しんとしている図書館が大好きなので、それが無くなるとちょっと違うと思うが、静かにしなくてはいけないと決めてしまうと、利用する人の範囲が狭くなってしまう。大声ではなく節度ある範囲で相談していい場所ができるとうれしい。

中島委員長

大学の場合でも同じで、歓談しだすと図書館でなくなってしまう。学生同士のグループが、あくまでも資料をもとにざわざわしない範囲で相談事ができる、話しながら資料が調べられるのがラーニングコモンズ。隣同士で一方は静かにしたい他方はそうではないといういと大変難しいため、すみ分けを工夫して、フロアで分けられればそれが一番ありがたいと思う。

伊藤委員

先日参加した研究会で障害者サービスの発表があり、利用者である知的障害者の方が図書館を使えない理由として、声を出してしまうことが挙げられたが、フロアからのコメントで声を出していい時間帯を設けている図書館もあるという話があった。県立図書館の機能を踏まえて御検討いただく必要があると思うが、図書館は静かにする場だと同時に、時間帯、曜日によっておしゃべりをしていいという利用の仕方もあるというような意識が利用者の方に芽生えると多様なニーズに応えられるサービスも生まれてくるかと思う。昨年ドイツの公共、大学、専門図書館が1フロアに入った音楽図書館のビルを視察する機会があった。大学図書館の部分は静かに勉強したい。公共図書館の部分は賑やかにしたい、しかも子どもたちを呼んでイベントをしたいということがかみ合わない。対処として土曜日の午後は公共図書館がここを使うことにして、建物を一度閉めてフロアのセッティングを変え、改めて公共図書館の利用者を入れてイベントをするという工夫をしている。こうあるべきということを少しずつ崩す可能性もいろいろあるのだと思った。

副館長

今は空間だけで考えているが、時間で分けるというアイデアも検討課題としたい。

中島委員長

他に御意見等が無いようなので、議題2に関しては了承ということでよいか。
「異議なし」

【その他】

資料に基づき図書の切り取り被害についての報告を行った（副館長）。

中島委員長

大変問題になっている。過去何十年もの蓄積の中で起こってきたことで、注意するのが難しく、今後利用しにくくなると困る。

意見も尽きたようなので、議事はこれで終了する。

7月26日開催の愛知芸術文化センター運営会議で、委員長である私が本日の内容を報告させていただく。皆様の御協力により無事終了できたことを感謝する。

【閉会】